

企業名：七十七銀行

レポート名：統合報告書 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

まず、この企業の特徴を理解しなければならない。七十七銀行は主に宮城県で事業展開を行っている銀行である。そして、七十七銀行が目指している将来の姿は「Vision30」という題目で4つの基本戦略を述べている。そして、なぜそれらが基本戦略となるのか？を明確に示している。七十七銀行の「価値創造プロセス」というページにおいてまず課題の発見→価値創造の源泉→七十七グループの方向性→ステークホルダーとともに想像する価値の順で丁寧に説明してくれている。これによって、現状の強み、弱みが理解しやすいだけでなく、弱点をさらけ出し、ステークホルダーにも安心感与えている。

次に、その詳細を見てみる。ここでさらに基本戦略を達成するための具体的な目標が書かれている。これにより、将来の姿への理解が深まる。最後に、取締役がそれぞれの戦略について語っているインタビューの文字起こしが記載されている。これら三つの記載によって抽象的→具体的の文章構成によって七十七銀行の目指す将来の姿が理解できた。

七十七銀行の目指す姿は「地域社会の繁栄のため、最良のソリューションで感動と信頼を積み重ね、ステークホルダーとともに、宮城・東北から活躍のフィールドを切り拓いていくリーディングカンパニー」を目指すということが分かった。そして、その将来の姿になるために1：顧客満足度ナンバーワン戦略、2：生産性倍増戦略、3：地域成長戦略、4：企業文化改革戦略、の四つの基本戦略を掲げている。そして、弱みはコストが高い、他者との競争力である。したがって、基本戦略によって、弱みは改善できるであろう。また、強みは顧客基盤、コンサルティング体制、顧客・地域からの信頼である。信頼と顧客基盤の面に関しては1の戦略でより伸ばせる。コンサルティング体制は3の戦略の進行を助けるものとなる。

以上のことから、七十七銀行の目指しているいる将来の姿はとても理解しやすいものであると考える。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

先ほど述べた通り、七十七銀行は宮城県、東北地方を主に活動拠点とする銀行である。特に宮城県においては、宮城県内貸出金シェア 44.1%、同県内預金シェア 57.9%と宮城県で一番と言ってもいいほどの地方銀行となっている。したがって、東北地方の経済を支えている。これが競争優位性となっている。しかし、この競争優位性に関する記述があまりにも少なか

った。基本的に、1で述べた将来の姿や方向性にのみ焦点を当てており、他者との比較があまりなされていなかった。それにより、現在の競争優位性への理解が難しかった。確かに、銀行ということもあり、製品などでの競争を行うわけでは無いので競争優位性の発見が難しいと思う。しかし、株主は数ある銀行の中で七十七銀行への投資を行う理由を見つけられない。したがって、競争優位性をより明確に示す必要があると考えた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

これもまた、大きく記述されていない。その理由の一つとして調べている企業が銀行であることが挙げられる。銀行に関しては、大きく変動することは多くない。したがって、持続性という面に関しての記述が少なくなることは仕方がないように思う。しかし、今後現れることがあろう課題を克服しなければ七十七銀行の競争優位性を持続することは不可能である。例えば、基本戦略2にデジタルトランスフォーメーションへの取り組みとある。例えば、今後通貨がインターネットで取引されるようになり、世界的な通貨の画一化が行われた場合、銀行の役割は少なくなる。こうした今後想定しうる課題に対して競争優位性を持続させるための記述をもう少し入れても良かったのではないかと考えている。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

七十七銀行はSDGsに従って、役職員一人ひとりが多様な活躍ができる組織づくりに取り組むことを活動内容に挙げている。その内容によればワークライフバランスの実現を目指し、総労働時間の短縮、育児・介護と仕事の両立支援など、自分のプライベートにも注力できる環境づくりができていると分かる。また、今回の論点である自分の人的資本の価値向上できる環境であるかということを考えてみる。先述したSDGsによる七十七銀行の従業員の活動支援として人材育成プログラムを実施しており、コンサルティング能力を向上できると述べている。また、キャリア形成支援を目的とした同企業交流会などを行っている。私が七十七銀行に入社すると、銀行でありながらもコンサルティングの能力が向上し、同企業内交流会で別のキャリアなども考える機会がある。したがって、七十七銀行で人的資本の価値向上を達成できると考える。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

私が報告書を読み、一番いいなと感じた点は図表を用いた分かりやすい報告書づくりである。特に将来の姿を述べている点では、それぞれが端的にまとめられており理解しやすかった。さらに、1でも述べたように、最初は要点のみをまとめており、抽象的であるが読むに

つれて具体的な事例や目標が提示されており全ての人にとって理解しやすく作られていると感じた。逆に改善できると感じた点は、他者と比較したときの競争優位性をより詳細に述べることである。株主としては、それぞれの企業の違いを比較するわけであるから、他者との差異を明確にしめすことはステークホルダーにとって重要であると考えた。